



松本 拓也 選手・キム ホ 選手・深堀 隼平 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号 **21** 松本 拓也 選手
GK 32歳

静岡県沼津市出身、奥様、小学1年生の娘さんと幼稚園年中の息子さんの4人家族。湘南ベルマーレで3年、川崎フロンターレで半年、ギラヴァンツ北九州で2年、ブラウブリッツ秋田で5年のゴールキーパー実績。GKはいつも選手達の後ろから全体の動きを俯瞰的に見ているので、若いころは選手達に頭ごなしに伝えることも多かった。最近は、個々のポジションで見えているものが違うことも配慮して、伝え方にも工夫をしている。まずは試合で勝つために鼓舞し続けることを意識し、反省事項は試合が終わってから伝えるよう心掛けている。

サッカー選手は平日休みなのでシーズン中は子供たちと遠くに出かけることはなく、岐阜に来てからは下呂温泉に一回行っただけで、鶴岡船もまだ乗っていないし、飛騨高山にも行けていないのは残念に感じている。オフの日の過ごし方は気分転換に県内遠出の日帰りゴルフを楽しんでいる。

子供の教育のために小さな錦鯉や金魚、昆虫採集に出かけた際に捕まえたトカゲを飼育している。トカゲの飼育にはエサのバツヤやコウロギが必要になるため、子供たちと近所の公園を駆け巡っている。

J2に昇格して皆さんと昇格を喜び合えるようにまずは残り試合を頑張るが、早くコロナ禍が収束して、ファン・サポーターやスポンサーの皆様との交流が出来るようになって欲しいと願っている。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号 **30** キム ホ 選手
MF 23歳

大韓民国ソウル市出身、家族は両親と学生の妹と弟の5人家族。高麗大学卒業後、FC岐阜に加入し、今シーズン2年目の選手である。昨シーズンはケガに悩まされ出場できなかったが、今シーズンは前半戦1試合、後半戦4試合(第22節終了時点)に出場し、今後の活躍が期待されている。

初めての日本、初めての岐阜で生活を始めているが、まだ、運転免許を取得する機会がなく、もっぱら自転車とバス、電車で行動している。岐阜はソウルより小さいが、人は親切で大変綺麗でよい街。食べ物も外食出来ない期間は自炊が中心で、メニューやレシピに困った時はソウルの母親に聞きながら挑戦している。外食ではカレーとトンカツが気に入っている。

チームメイトは皆素晴らしい選手ばかりだが、特に川西選手が良く話してくれ、いろんなアドバイスももらっているし、尊敬している。

残り試合を昇格に貢献できるように、座右の銘の『たゆまぬ努力』で頑張ります。

韓国ではダゾーンの放送がなく、日本でのプレーが見られないが、自分の記事などは切り抜いて両親に送っている。もっと頻繁に送れるように頑張りますと、もの静かな性格に秘めたる闘志を感じて、今後の大いなる健闘の期待を伝えた。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号 **44** 深堀 隼平 選手
FW 23歳

愛知県長久手市出身で両親と兄の4人家族。中高時代の6年間は名古屋グランパスのアカデミー育成で、2017年に名古屋グランパスのトップチームに昇格した逸材。2019年の1月から、今までの恵まれ過ぎたサッカー人生を外から見直すために、希望してポルトガル1部リーグのヴィトーリア・ギマランズに半年間移籍した。大きなチームではなかったが、施設や環境の素晴らしさや観客の多さでサッカーの歴史の厚みを感じた。特に専用スタジアムでの観客との距離感や親密感には日本のどこにもない長い伝統文化を感じた。良かったことはポルトガル人選手とは片言のポルトガル語で、その他の外国人選手とは片言の英語で通じ合えて、以後日本でも外国人とも意思疎通が図れるようになったことである。その後、名古屋グランパスに復帰した後、水戸ホーリーホックへ移籍、今シーズン7月からFC岐阜に加入した。

岐阜は練習環境もよく、良い選手が大勢いるのでJ3にいるべきではないと感じている。自分も大いに力を発揮してJ2昇格に貢献する覚悟である。スピードでは誰にも負けない自信があり、夢は日本代表選手として活躍できるようになること。

「人生二択」が座右の銘であり、オンオフでしっかり時間を使っていきたいが、コロナ禍で友人や仲間などと会えない時間が続いているのを残念に感じている。